

J A 自己改革推進レポート（J A 鳥取西部） 2月号

1. 「1本でも多く出荷を」白ネギ雪害出荷規格を適用

年末年始の降雪・積雪により管内特産の白ネギに葉折れや葉割れなどの被害が発生したことを受け、J A 鳥取西部白ネギ部会は1月4日、緊急の運営委員会を開いた。

運営委員会では、被害が出た白ネギに雪害出荷規格を適用し、「雪かぶりネギ」として1月6日から出荷することを決めた。



2. 役員が担い手を訪問

J A 鳥取西部は、J A 自己改革の一環として常勤理事が地域の担い手農家を訪問し、地域農業の現状や今後の展望、J A の役割などについて意見交換をする取り組みを行っている。

1月12日には、植田専務が伯耆町と南部町の法人や個人など5カ所を訪問し、農業経営や地域農業、J A などについて率直な意見交換を行った。

1月14日には、谷本組合長が米子市の担い手農家5戸を訪問し、米の政策や鳥取和牛のブランド化、J A の取り組みなどについて意見や要望などを聴き、牛舎を見学した。



3. 学校給食週間に出前授業。食と農のかかわりを考える

J A 鳥取西部は1月26日、全国学校給食週間に合わせ、児童に食の大切さについて学んでもらうことを目的に、伯耆町立岸本小学校で食育出前授業を行った。

授業では5年生52人に対し日本の食料自給率や農業の現状、農地の役割などを分かりやすく解説した。



以上